

風しんワクチンの予防接種を受けられる方へ

風しんの予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、予診票にできるだけ詳しくご記入ください。ご高齢もしくは未成年の方などでご自身での記入が難しい方が接種を希望されている場合には、健康状態をよく把握しているご家族など代理人の方がご記入ください。なお、原則として接種される方の接種希望確認ができない場合は接種できませんので予めご了承ください。

【風しんについて】

風しんウイルスの飛沫感染（ウイルスや咳やくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物に包まれて空気中へ飛び出した人に感染させること）によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

【ワクチンの特徴と副反応】

このワクチンは、風しんウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。副反応は、過敏症として接種直後から数日中に発疹、蕁麻疹、紅斑、かゆみ、発熱などが、全身症状として、発熱、発疹、頸部や他のリンパ節の腫脹、関節痛などがあらわれることがあります。まれにショック・アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病の発生も報告されています。このような健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人又は家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

【予防接種を受けることができない人】

- ①明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去に風しんワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④妊娠している方※
- ⑤免疫不全などの診断を受けた人または免疫抑制を起こす治療を受けている人
- ⑥その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

※妊娠の可能性のある人に接種する場合には、**あらかじめ約1ヶ月間避妊した後に接種**をして下さい。

また、**ワクチン接種後は約2ヶ月間は妊娠しないように注意**して下さい。

【予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人】

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの基礎疾患がある人
2. 発育が遅く、医師、保健師の指導を継続して受けている人
3. カゼのひきはじめと思われる人
4. 前回の予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた人
5. 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
6. 今までにけいれんを起こしたことがある人
7. 過去に免疫不全と診断されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

【予防接種を受けた後の注意】

- ①接種後 30分間は、急な副反応が起こることがあります。医療機関にいるなどして様子を観察し、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②接種後 24時間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこするようなことはやめましょう。
- ④接種当日はいつも通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。